

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>聴覚障がい児一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、豊かな心とたくましく生きる力を育てる。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 確かな学力の定着を図る学習指導の充実 2 豊かな心と健やかな体の育成 3 よりよい社会参加に向けての豊かな自己表現力の向上</p>
----------------------------------	---	-----------------------------	--

年 度 当 初		評 価 結 果 (2) 月						
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
確かな学力の定着を図る学習指導の充実	(地) ○個々の発達に応じて言語の獲得・拡充を図る。 ○在籍園・在籍校と連携し、その子に応じたよりよい支援を提供する。	○個々の聴こえの程度や発達の状態、その子を取り巻く状況によって、適切な言語環境下におかれている幼児・児童・生徒がいる。	○個々の発達に応じて、言語活動が身につく。 ○在籍園・在籍校との日々の連携が充実し、個に応じたよりよい支援ができる。	○聴力検査や発達検査等を行い、その子に応じた支援方法を考え、本人、保護者、担任等に伝える。 ○理解学習等の研修、日々の学習支援について幼児児童生徒の実態や在籍園・在籍校のニーズに応じた支援を提供する。	○教育相談開始時には聴力測定は本校の場合は必須である。その他の発達検査等については本人保護者のニーズに応じながら随時実施している。 ○保護者自身もどのようなところに困り感が生じているのかまだ理解できていない方もおられ、保護者からニーズの聴きとりが難しい場合がある。	① A ② B	①継続して実施していきたい。 ②保護者への研修、啓発もさらにやっていく。	
	(幼) ○語彙を増やし、正しい日本語でやり取りをする力や意欲を育てる。	○楽しくやり取りをしようとするが、思いが言葉にならなかったり言葉や助詞の間違い等があったりする。	○助詞を使った2～5文節の文でやり取りができる。	○毎月の学習計画にあげた言葉の獲得の推進を図る。	○行事等で言葉の拡充に努め、学習計画にあげた言葉は、個々の目標をほぼ達成できている。また、朝の会で共通の話題を取り上げ、伝え合う活動に取り組んできた。保護者と連携することにより絵日記の文章表現が豊かになり、子ども同士のやり取りが活発になってきている。	○友達の記事表現を家庭で話しかけに活用してもらい、語彙の拡充につなげていきたい。	B	○友達の記事表現を家庭で話しかけに活用してもらい、語彙の拡充につなげていきたい。
	(小) ○基礎学力をつけ、コミュニケーション力の向上を図る。	○語彙力、情報の不足等により、基礎学力の習得に課題が見られる。	○各児童がそれぞれの目標を達成する。 ○コミュニケーションが活発になる。	○家庭学習の点検、学習量の適正化に努める。	○国語・算数については学習の最初に既習事項の確認をするなどして学習の定着を図った。漢字書き取りや計算については定着が見られるが、読解については課題が残る。また、時事問題を話題にしたり、視覚的な教材を準備したりするなどして話題を広げるようにした。相手の顔を見て聞いたり理由を付けて自分の意見を言ったりする力が育ってきている。	○既習事項の確認の取り組みを継続する。 ○つまずきの傾向について共通理解を図るとともに支援の方法について話し合う時間を作ることで指導力の向上を目指す。	C	○既習事項の確認の取り組みを継続する。 ○つまずきの傾向について共通理解を図るとともに支援の方法について話し合う時間を作ることで指導力の向上を目指す。
	(中) ○語彙力、思考力、表現力の向上と確かな学力の定着を図る。 ○コミュニケーション力の向上に努める。	○言葉への意識があり、活用しようとするが、思いが言葉にならなかったり言葉や助詞の間違い等があったりする。しかし、語彙力が弱い傾向があり、積極的なコミュニケーションには至っていない。言語の概念形成が未習得の面が見られ、具体的な体験活動や話し合い活動を通して確かな学力をつけていくことを必要としている。	○語彙力、思考力、表現力が育ち、各生徒がそれぞれの目標を達成する。 ○自信を持ってコミュニケーションがとれ、会話が広がる。	○具体的な体験活動を通して言語の概念形成を図るとともに、話し合い活動や情報機器を取り入れて学力向上をめざす。 ○一人一人の的確な実態把握と目標設定を行い、学部で共通理解をしながら、目標に沿った学習内容を計画していく。記録・評価を行い、次時の学習に活かしていく。	○帯目立活動で手話表現・語彙テスト等に取り組み、表現が広がった。学校祭や収穫祭に向けた学習において、学部全員で話し合い活動を取り入れた。その結果、生徒がすすんで話し合い活動を行い、主体的に企画を考えて活動するようになった。 ○自立活動における一人一人の目標を修正し、意識して学習に取り組んだ。弁論大会では自分の考えをまとめ、手話表現を工夫して表現することができた。	①さらに生徒が活動に意欲的に取り組めるよう話し合い活動を設定し、書いて考えることや相手の話を理解し、自分の考えを修正して深めること等を取り入れていきたい。また、家庭や寄宿舎と連携を取りながら家庭学習の定着も図りたい。 ②自立活動指導段階表を使用した学習内容の精選と年間指導計画の見直しを行う。個人の実態に応じた支援の工夫を継続していく。	① B ② B	①さらに生徒が活動に意欲的に取り組めるよう話し合い活動を設定し、書いて考えることや相手の話を理解し、自分の考えを修正して深めること等を取り入れていきたい。また、家庭や寄宿舎と連携を取りながら家庭学習の定着も図りたい。 ②自立活動指導段階表を使用した学習内容の精選と年間指導計画の見直しを行う。個人の実態に応じた支援の工夫を継続していく。
	(高) ○自学自習の力をつけるために、家庭学習の習慣化に取り組む。	○家庭学習が習慣化していない生徒もおり、その指導法を工夫する必要がある。	○毎日、最低2時間以上の家庭学習を全生徒が行う。 ○家庭学習時間を5割増加させる。	○常に進路を意識した学習への動機づけを全教職員で継続・徹底する。 ○個別の課題を徹底するとともに、週始めに家庭学習時間の確認を行う。	○高3生は、進路に向けて、家庭学習の習慣化はもろろのこと、家庭学習も充実したものとなった。また、高1生は、進路直接に関わる大学や職場を見学し、肌で感じたことで動機づけができ、意欲的な取り組みがみられた。	○家庭学習の内容や時間の確認を継続し、生徒の学習意欲の喚起を促す。個々の特性に応じた課題について、共通認識を行い指導するとともに、今まで以上に家庭との連携を深める。	B	○家庭学習の内容や時間の確認を継続し、生徒の学習意欲の喚起を促す。個々の特性に応じた課題について、共通認識を行い指導するとともに、今まで以上に家庭との連携を深める。
豊かな心と健やかな体の育成	(地) ○発達に応じた補聴器等に關した生活習慣が身につけられるよう家庭や在籍園・在籍校との連携を図る。 ○個々の状態に応じて聴覚障がいの理解学習等の研修を充実する。	○聴覚障がい児に対するかかわり方への正しい理解のなさや不安から適切な環境下で育ちにくい状況にある幼児児童生徒がいる。	○家庭や学校等との日々の充実した連携がとれている。 ○保護者や家族、教職員等に対する聴覚障がい教育の研修が充実する。	○相談や連絡帳等を通して保護者や学校等と日々の丁寧な連携を図る。 ○計画的に保護者や学校等を対象として幼児児童生徒や在籍園・在籍校のニーズに応じた研修会を開催する。	①教育相談の中では指導し、できるようになってはいても、家庭での協力が難しい場合や家庭の状況が難しい場合もあり、全ての子どもに対してできていないと言えない状況にある。 ②研修会は実施しているが、年齢層も広く、それぞれの実態も大きく異なるので全ての保護者のニーズに対して研修会が実施できているとは言えない。在籍園や在籍校に対してはニーズを聴きとり、それに合わせた研修を行うようにしている。	① B ② B	①今以上に発達段階だけではなく、それぞれの家庭の状況に応じた支援を一層提供していく必要がある。 ②個別のニーズに応じた研修会を持ち、それに応じてグルーピングを行うなど今後も研修会の実施方法を検討していきたい。	
	(幼) ○体験的な活動を通して、身近な事象への興味・関心を広げ、感じる心を育てる。 ○いろいろな運動をしようとする意欲の育成を図る。	○経験が不足していたり、情報が入りにくかったりして、興味・関心がせいまい。 ○身体を動かすことが好きになってきているが、運動経験が不足している。	○いろいろな事象に興味・関心をもつ。 ○進んでいるいろいろな運動をしようとする。	○直接触れる体験ができる環境や機会の設定に努める。 ○いろいろな運動ができる環境や機会の設定に努める。	○自然に親しむ活動を多く取り入れ、季節感を体感することにより、興味・関心が広がり、感じる心が育ってきている。 ○校外に出かけたり全身を使って遊ぶ場やいろいろな運動ができる機会を設定したりした。	○さらに、季節に応じた場や活動を設定し、感じる心や運動する意欲を高めていきたい。	A	○さらに、季節に応じた場や活動を設定し、感じる心や運動する意欲を高めていきたい。
	(小) ○基本的な生活習慣の確立を図る。	○遠距離通学児童が多く生活時間の有効な活用、睡眠習慣、心身の健康、挨拶・マナーの定着状況等の確認が必要である。	○きまりよい生活を送る。 ○身体を使って遊ぶ。	○保護者との連携を図る。 ○健康観察の際の声かけと休憩時の運動の励行に努める。	○寒さを理由に室内での遊びが多く、体を動かして遊ぶことが少なかったが、マラソンや縄跳びなど体育の学習の内容に合わせて家でも練習する姿が見られた。通学や学習のマナー、挨拶や体の清潔などは機会をとらえて指導し、少しずつ改善してきている。	○生活時間や過ごし方についての実態把握を行い、機会をとらえて指導に活かす。 ○児童同士がお互いの意識を高めるために、児童会の児童が手本を示す。	B	○生活時間や過ごし方についての実態把握を行い、機会をとらえて指導に活かす。 ○児童同士がお互いの意識を高めるために、児童会の児童が手本を示す。
	(中) ○自尊感情をはぐくむ人権教育と思春期を意識した性教育の取組を進める。	○明るい性格で活動的であるが、思春期にあり人間関係に悩んだり、自分に自信が持てずにいる姿も見られる。	○自尊感情が高まり、自分や周りの人を大切に考えた行動がとれ、将来に向けて必要な性教育の内容を理解する。	○学部会において子どもを語る時間を確保し、生徒一人一人の状況を把握するとともに、一人一人の自尊感情を高める支援を工夫する。思春期にある生徒の心情を中心に、生徒理解を行うとともに、将来に必要な性教育について家庭と連携した実践を行う。	○学習において一人一人が充実感・達成感を感じられるような授業での支援を工夫した。指導すべき内容についても時間を取って話し合い、生徒本人が納得して自分の行動を振り返ることができるような伝え方に努めた。性教育公開学習では保護者とともに心と体の成長について確認しながら学習をすすめることができた。	○性教育の年間指導計画の見直しをし、年間を通じた教科領域のつながりを意識して取り組む必要がある。	B	○性教育の年間指導計画の見直しをし、年間を通じた教科領域のつながりを意識して取り組む必要がある。
	(高) ○社会自立を動機づける生徒指導を徹底し、規律ある生活習慣を身につけさせる。	○多くの生徒はきまりを守り生活できているが、社会自立に向けてさらに生活習慣を確立させる必要がある。	○家庭や寄宿舎との連絡を徹底し、連携を密にする。 ○常に進路や社会自立を意識させ、生徒の気持ちを受け止めながら、全教職員で生徒指導を徹底する。	○家庭訪問や懇談等を活用し、保護者に学校の指導を周知徹底する。 ○個別の生活指導の徹底を図る。	○前期には一部の生徒で体調や精神面で時間規律が確立できていない場面もみられたが、様々な支援により改善がみられた。ほとんどの生徒が基本的な生活習慣は確立されている。	○家庭や寄宿舎とも更に連携を密にして、生徒の状況に関わる情報を共有して、学校教育への協力を得る努力をしていく。外部の相談機関との連携を深め、更に個別の生活指導を図る必要がある。	B	○家庭や寄宿舎とも更に連携を密にして、生徒の状況に関わる情報を共有して、学校教育への協力を得る努力をしていく。外部の相談機関との連携を深め、更に個別の生活指導を図る必要がある。
よりよい社会参加に向けての豊かな自己表現力の向上	(地) ○保護者や本人が子どもや自分の障がいを理解し、適切な進路選択ができるように支援する。 ○コミュニケーション力の基礎を育成し、他者とかかわりたいという意欲を育てる。	○保護者も本人も障がいの受容できず悩んでいることがある。また、障がいがあることで他者とかかわりが消極的になってしまう事がある。	○本人や保護者の気持ちを大切にしながら適切な進路及び研修の提供に努める。 ○本人の気持ちの受け止めながらよりよいかわりのモデルを提供に努める。	○自己理解の学習を進めたり、共に進路について考えられるように研修を実施する。 ○他者と楽しんでかかわれるような活動を計画し、個別や集団等学習の形態の工夫する。	①全ての子どもたちに対して、自己理解の学習を進めたり、進路についての話をしたりはしている。学校祭ではさんさん教室の子どもたちを集まってもらいステージでの発表を試みた。 ②コミュニケーションの問題については全ての子どもには入れていないが、全ての子どもたちがその能力の向上が見られているとは言えない状況である。	① B ② B	①今後も保護者や子どもの実態やニーズに応じた自己理解や進路の学習や話を継続して行っていきたい。また、仲間づくりも支援していきたい。 ②評価規準の難しさがある。個々の子どもに応じた評価規準を指導者・支援者側がしっかり持ち、今後も丁寧な支援をしていきたい。	
	(幼) ○友達と一緒に活動することを通して、互いの思いを伝え合い、かかわる力を育てる。	○かかわり方に支援が必要であるが、友達と好んで活動する。	○自分の思いを表現しながら、友達とかかわることができる。	○幼児同士がかかわることができる場の設定やかかわり方の支援について工夫する。	○友達を意識してかかわることができる場や機会を設定し、その都度かかわれるように働きかけてきた。友達の良いさを認め合い、協力して活動する姿が見られるようになってきている。	○機会を捉えて、自分の思い伝えたり、相手の思いを受け止めたりできるように支援していきたい。	B	○機会を捉えて、自分の思い伝えたり、相手の思いを受け止めたりできるように支援していきたい。
	(小) ○合同学習や体験学習に意欲的に取り組む態度を育成し、キャリア発達への支援に努める。	○友だちと意見を出し合う経験が少なく、主体的に判断し決定する場が不足している。	○合同学習や体験学習で活発にやり取りしながら活動する。	○主体的に活動するため、めあてを意識して活動に参加できる合同学習の推進を図る。	○学習の事前・事後指導をすることにより、自分のめあてを意識したり、友達に認められ自信をもったりすることができ、意欲的に活動することができた。また、役割を任せられることにより主体的に活動に参加する姿が見られた。	○集団での学習指導の際には事前・事後指導を行い、学習の見通しをもち、めあてを意識し主体的に活動できるようにする。 ○活発にやり取りできるように。話し合いの進め方について具体例を児童に示す。	B	○集団での学習指導の際には事前・事後指導を行い、学習の見通しをもち、めあてを意識し主体的に活動できるようにする。 ○活発にやり取りできるように。話し合いの進め方について具体例を児童に示す。
	(中) ○生徒の適性をふまえた進路指導と全教科全領域を通じたキャリア教育の推進に努める。	○進路に関してはまだはっきりとした目標は立っていない。職場見学、職場体験実習を経験する中で少しずつ将来へのイメージを考えつつある。	○高等部へのイメージを持ち、将来につながるために必要な学習へのイメージが持てる。職場見学、職場体験学習に目標を持ってのぞみ、自己の振り返りをする中で、自分の課題や次の目標を考えることができる。	○生徒の適性をふまえ、将来につながるための必要な学習を工夫する。生徒のニーズに合った職場見学や職場体験を設定するとともに、事前学習を行い、個人の目標設定を行う。学習の終わりに、振り返りの学習を行い、自分の課題や次の目標をつなげていくことができるようにする。	○先輩の話を聞く学習を通して自分の将来の生活を意識することができた。卒業生の話を聞いたり国府中学校との交流及び合同学習を通して健聴者との関わりについての課題に気づくことができた。	○今後も機会をとらえて聴覚障がいのある先輩の話を聞いたり将来の生活について語り合ったりする機会を設け、進路について考えることができるよう支援していく。キャリア発達支援段階表を具現化していく。	B	○今後も機会をとらえて聴覚障がいのある先輩の話を聞いたり将来の生活について語り合ったりする機会を設け、進路について考えることができるよう支援していく。キャリア発達支援段階表を具現化していく。
	(高) ○職場見学や現場体験学習を活用し、体験的学習を充実させることで社会性を身につける必要性を理解させる。	○実際に仕事の現場で職場の人間関係を円滑にするためのコミュニケーションが必要であることを実感できていない生徒もいる。	○すべての生徒が実際の職場での体験学習を通して、社会性を身につけることの必要性を理解できる。	○体験学習後にまとめ学習を通して、達成できたかどうかの評価を行う。 ○体験学習をきっかけに、社会性を身につけるための継続的な取り組みを行う。	○現場体験学習での評価と自己認識とにズレがある生徒の実態もみえてきた。今後継続的に学校において社会力を身につける取り組みを続ける必要がある。	○キャリア発達支援段階表の具現化を継続し、生徒の特性をふまえて、学校生活における社会力を身につける取り組みを進めていく。	B	○キャリア発達支援段階表の具現化を継続し、生徒の特性をふまえて、学校生活における社会力を身につける取り組みを進めていく。